

7月に振り返る二つのこと

校長 角田 茂勝

1学期のまとめの時期となりました。14日間の登校を終えれば夏休みがやって来ます。子どもたちが4月当初に立てた目標の達成度を振り返り、学習面や生活面でしっかりできたことと、もっと頑張りたいことを把握し、今後の成長につなげて行くことができるように支援していきます。

さて、7月といえば七夕を思い浮かべる方も多いかも知れません。短冊に願いごとを書いたり、天の川が見られるか期待しながら夜空を見上げたりするおなじみの行事でもあります。ところで、7月7日が私たちにとって記憶にとどめておきたい日でもあるのですが、皆さんはご存知でしょうか。それはこの日が旭町小学校の創立記念日であるということです。

旭町小学校は、古ヶ崎小学校と馬橋小学校から分離する形で昭和50年（1975年）4月1日に開校しました。当時の児童数は778名でした。開校当時の本校の周辺には旭町中学校や松戸馬橋高等学校もなく、一面に田んぼと畑が広がるのどかな風景が広がっていました。翌年には児童数が1053名（26学級）に増え、1501名が在籍する最大規模となる昭和57年（1982年）まで児童数の増加が続き、7月7日を創立記念日としたのは昭和52年のことで、学校沿革誌を見ると、この日に「初めて創立記念行事を持つ」と記されています。残念ながら、なぜ7月7日にしたのかはわかりませんが、それ以降、旭町小学校の創立記念日は7月7日とされています。

これまでに卒業した児童の数は6928名にのぼり第1期生は57歳になることを考えると、改めて歴史を感じます。

7月を迎え、節目として1学期を振り返るだけでなく、47年に及ぶ旭町小の歴史を振り返ることも意義のあることだと思いました。



開校直後の旭町小付近の様子
(昭和50年5月26日撮影)